

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

章 卷	第	號
產 業 門		
商 業 部		
會計簿記	帳簿	類
目		
全	1 冊 / 内	1 冊
分 番	第	號
. 679.25		

24724

校學範師岡

書 門 數
部 算 術

番	9
號	1
2 冊 / 内	

25074

初編

圖書 和圖書 遡



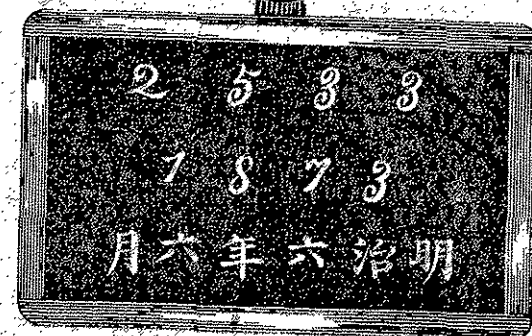
a 1 3 8 0 3 2 7 2 9 6 a

福岡教育大学蔵書

T 1A1

67

F 85



# 帳合之法

初編  
二冊

福澤諭吉譯

慶應義塾出版局



帳合之法卷之一

凡例

一此帳合法ノ原書ハ千八百七十一年アメリカ高賣學校

ノ先生「グライヤント」並ニ「スタラトシ」ノ兩人ガ著述セ

シ學校用「ブックキイピング」ト云フ書ナリ「ブックキイピン

グ」トハ帳合ノ「ナリ

一帳合ニ略式ト本式ト二様アリ初編二冊ニハ先ツ略式

ノミヲ譯シ本式モ其譯半成リタレバ近日コレヲ第二

編トシテ出版ス可シ

一書中ノ譯例ヲ記ス前ニ序ナガラ余ガ此書ヲ翻譯セン

趣意ヲ示ス左ノ如シ

第一古來日本國中ニ於テ學者ハ必ズ貧乏ナリ金持ハ  
必ズ無學ナリ故ニ學者ノ議論ハ高クシテ口ニハヨク  
天下ヲモ治ルト云ヘドモ一身ノ借金ヲバ拂フヲ知  
ラズ金持ノ金ハ澤山ニシテ或ハコレヲ瓶ニ納テ地ニ  
埋ルヲアレヒ天下ノ經濟ヲ學テ商賣ノ法ヲ遠大ニス  
ルヲ知ラズ蓋シ其由縁ヲ尋ルニ學者ハ自カラ高ブ  
リテ以為ラク商賣ハ士君子ノ業ニ非ラズト金持ハ自  
カラ賤シメテ以為ラク商賣ニ學問ハ不用ナリトテ知  
ル可キヲ知ラズ學ブ可キヲ學バズシテ遂ニ此弊ニ陷

リタルナリ何レモ皆商賣ヲ輕蔑シテコレヲ學問ト思  
ハガリシ罪ト云フ可シ今此學者ト此金持トナシテ此  
帳合ノ法ヲ學ハシメナバ始テ西洋實學ノ實タル所以  
ヲ知り學者モ自カラ自身ノ愚ナルニ驚キ金持モ自カ  
ラ自身ノ賤シカラガルヲ悟リ相共ニ實學ニ勉強シテ  
學者モ金持ト為リ金持モ學者ト為リテ天下ノ經濟更  
ニ一面目ヲ改メ全國ノ力ヲ増スニ至ラン乎譯者ノ深  
ク願フ所ナリ

第二都テ世ノ中ノ事物ニ就キ不便利ヲ見出シテ苦情  
ヲ述ルハ易ケレヒ其不便利ヲ補フノ術ハ甚タ難シ

諸方大家ノ帳合ヲ見聞スルニ何レモ皆混雜多ク一商家ノ棚卸ニハ店中惣拭リニテ二箇月ヲ費シ尚不分明ナルモノ多シ帳合ノ宜シカラザル證據ナレ氏今日ニ至ルマデコレヲ改正シタル者アルヲ聞カズ一家ノ不便利ノミナラズ天下一般ノ不便利ト云フ可シ今コノ譯書ハ唯西洋帳合ノ初步ナレバ固ヨリコレヲ以テ諸商賈ノ帳合ヲ一變シテ全ク世ノ不便利ヲ除ク可キニハ非ザレ氏先ツ此書ヲ以テ帳合學ノ門ニ入り次テ二編ノ本式ヲ學ヒ尚進テ其奧義ニ達スルヲアラバ遂ニハ全國公私ノ會計ヲ便利ニス可シサレバ此冊子粗ニ

シテ小ノリト策氏尚ナキニ優レル乎

第三前条ニモ云ヘル如ク古來日本ニテハ學問ト家業ト互ニ縁ナク學者ハ字ヲ知ルホド益高クシテ天ニモ登ラントシ無學ノ百姓町人ハ益輕蔑セラレテ地ニモハラントスルノ勢ニテ互ニ近ヅクナシ或ハ好事ノ百姓町人少シク書ヲ讀テ學者ノ真似ナスル者アレバ無用ノ漢文詩歌ニフケリ物ノ數ヲ知ラズ金錢ノ勘定ヲ忘レ家業ノ便利ニハ為ラズシテ必ず身代ヲ破ルニ至レリ故ニ百姓町人ハ學者ヲ見テ表向ニコレテ貴ビ物知り先生ナド、口ニハ云ヘドモ内心ハ既ニ其所業



中  
之  
法  
戸  
ヲ厭ヒ盡シ學者ヲ視ル一貧乏神ノ如クシテ敢テコレニ迫ヅク一ナク其子弟ヲ戒テ讀書ヲ禁スルノ勢ト爲リ今日ニテモ洋學ノ道漸ク開ケ諸方ニ學校ノ世話アレ氏農工商ハ既ニ學者ノ所業ニ懲リ學問ノ名ニ恐怖シ又例ノ學問ナルカトテ其學ノ虛實ヲ問ハズ其名ヲ聞テ先ツコレヲ避ケントシ正ニ進歩ノ洋學モコレガタノニ妨ゲラル、一多キハ何ソヤ畢竟數百年來和漢ノ學者先生ガ虛文空論ニ溺レテ實學ヲ求メズ下民ヲ愚ニシタル罪ト云フ可シ實ニ歎息ス可キナリ右ノ次第ニ付今此帳合ノ法ヲ諸君ノ學校ニ用テ生徒ノ讀

本ト爲シ平民ノ子弟或ハ其學ビシ一ツ家ニ歸テ父兄ニ語ル一アラバ父兄モ始テ洋學ノ實ナルヲ知り安心シテ其子弟ヲ學問ノ道ニ入ル、者次第ニ多カル可シ然ハ則コノ冊子ハ帳合ノ法ヲ教ルノミナラズ一般ニ學問ノ著實ナル證據ヲ示シテ周子ク世人ヲ讀書ノ門ニ導クモノト云フ可シ和漢古今ノ空學者流ガ人ヲ愚ニセシ罪ハ深ト余此一書ノ願カニ由テ其罪業ヲ消滅シ農工商三界ノ萬靈ニ開知ノ功德ヲ施スヲ得ン乎斯ノ如クナラバ余ガ翻譯ノ勞ニ報ヲ得ルモ亦大ナリト云フ可キナリ

第四帳合モ一種ノ學問タルハ此譯書ヲ見テ既ニ明白  
ナリサレバ商賣モ學問ナリ工業モ學問ナリ又一方ヨ  
リ論ズレバ天ノ定則ニ從ヒ心身ヲ勞シテ其報ヲ得ル  
モノハ商賣ナルユヘ役人ノ政ヲ為シテ月給ヲ得ルモ  
商賣ナリ古ノ武士ガ軍役ヲ勤テ祿ヲ得ルモ亦商賣ナ  
リ然ルニ世ノ人皆武士役人ノ商賣ヲ貴ク思ヒ物ヲ賣  
買シ物ヲ製作スル商賣ヲ賤シク思フハ何故ゾ畢竟商  
賣ヲ貴キ學問ト思ハザリシ心得違ナリ其心得違ノ甚  
シキニ至テハ一身ノ利害ヲモ忘ル、者多シ試ニ一例  
ヲ舉テコレヲ説カンルニ云ヘル如ク物ヲ賣買製造ス

ルモ商賣ナリ武家奉公モ商賣ナリ先ツ十万石ノ大名  
ノ家ヲ一商社トスレハ一年ノ利潤正米四萬石ナリ一  
石三兩ノ相場ニスレバ代金十二萬兩此内四分ノ一即  
チ三萬兩ハ社頭ナル殿様ノ用ニ供シ残テ正味ノ利潤  
九萬兩トスコノ商賣ヲ為スニ上家老ヨリ下足輕小者  
ニ至ルマデ凡千二百人ノ働ナカル可ラズ九萬兩ヲ平  
均シテ千二百軒ノ家ニ分テバ一年七十五兩ナリヨキ  
武家ニハ奉公人ヲ召使フ者モ多キユヘ一家ノ人數上  
下平均六人トスレバ一人前一年十二兩五貫文一月一  
兩ト四百十六文一日三百四十七文ナリ廢藩以前諸藩

士ノ利潤ハ大凡コノ割合ナル可シ今コノ武家高賣ヲ止メ古來受員ノ軍役ハ常備ノ兵隊ニ讓渡シテ其身ハ物ヲ製造シ物ヲ賣買シ物ヲ運送スルノ高賣ヲ始メナバ其利潤必ス以前ニ陪ス可シ一身ノ利得ナラズヤ家内六人ノ内三人ヲ老幼病人トシ三人ヲ達者ナル男女トシテ三人各六百九十四文ノ稼ヲナセバ尚依然タル舊藩士ニ異ナラズ高賣ノ道艱難ナリト金氏屈強ナル身体ヲ以テ一日ニ六百九十四文ノ錢ハ得難キニ非ラズ人力車ヲ牽テ十町ノ路ヲ往來スレバ半時ノ間ニ得ベキ錢ナリマシテ進來ハ士族ノ俸ハ大ニ減シ平均十

石ヨリ二十石多キモ三十石ニ出デズ此利潤ヲ六人ノ家内ニ配分セバ人力車ノ利ニ及バザルヲ遠シ加之今ノ上族ニハ既ニ軍役ノ勤モアラズ勞セズシテ報ヲ得ントスルハ男子ノ耻ヲ可キ所ナリ然ルヲ尚モコノ米ニ粘著シテ獨立ノ活計ヲ立テントスル者ナキハ果シテ何ノ心ヅヤ人心ノ暗愚斯ノ如クナルトハ實ニ不可思議ナレ其本ヲ尋レバ數千百年先入スル所主ト為リテ事ノ利害得失ヲ顧ミズ安ニ高賣工業ヲ輕蔑シテコレヲ學問ト思ハザルノ罪ナリ今コノ帳合ノ法ハ此輩ノ人ヲシテ學問ノ道ヨリ進テ高賣工業ノ門ニ入り

獨立ノ大志ヲ起サシメントスルノ趣意ナリ

一書中都テ金ノ高ヲ書クニ何十何百何十ト記サズシテ  
一ヨリ九マデノ數字ヲ用ヒ其數字ノ位ヲ見テ金高ヲ  
知ルハ恰モ算盤ノ桁ヲ見ルガ如シ左ニ其一例ヲ示ス

一二三四五〇〇〇〇ハ十二萬三千四百五十圓ナリ

一二三四五〇〇〇ハ一萬二千三百四十五圓ナリ

一二三四五〇〇〇ハ千二百三十四圓五十錢ナリ

一二三四五〇〇〇ハ百二十三圓四十五錢ナリ

一二三四五〇〇〇ハ十二圓三十四錢五厘ナリ

右ノ如ク同シ數字ニテモ其位ニ由テ十陪ツハノ高下

アルナリ多ク數字ノ重ナルハ三字毎ニハノ点ヲ打  
テ百ト千ト十萬ト百萬トノ位ヲ分ツ本文ニハ圓ノ位  
ト錢ノ位ヲ明ニ分ツタメ横ニ線ヲ引ケリ或ハ品物一  
ツノ價何圓何錢替ト云フ畧ニ線ヲ用ヒズシテ譬ヘバ  
田一二七五セエト記シタルハ十二圓七十五錢替ノ事  
ナリ此數字ノ用法ハ初學ニ不適當ノヤウナレト決シ  
テ然ラズ譯者モ最初ハ自カラ紛ラハシク思ヒ折節位  
ヲ誤ルヲモアリシガ五六枚翻譯スル内ニ直ニコレニ  
慣レ日本流ニ金ノ高ヲ記スヨリモ遙ニ便利ナルヲ覺  
ヘタルヲトレバ誰ニテモ四五日ノ熟練ニテ容易ニ出



来ルヲナル可シ  
此書ハ半紙ノ本ナルユヘ唯諸帳面ノ雛形ヲ示スノミ  
コレヲ實地ニ用ルニハ豎八行乃至十行横四五十段計  
リノ大形ノ系版ヲ彫刻シ美濃紙歟西ノ内位ノ大紙ニ  
朱欵籃ニテ極々薄ク摺立コレヲ帳面ニ綴シ日記帳ニ  
テモ大帳ニテモ實地ニ事ヲ記スルハ此書中ノ雛形ニ  
墨ノ線アル例ニ倣テ薄キ朱ノ系ノ上ニ一々墨ニテ線  
ヲ引ク可シ西洋帳合ノ法ハ皆コノ風ナリ故ニ彼ノ國  
ノ帳場ニハ必ず系引ノ道具ヲ備ヘリ日本ノ店ニテ厚  
サ一尺余モアルベキ大福帳へ子供ノ清書ノ如キ大文

字ニテ帳合スルトハ大ニ趣ヲ異ニセリ  
一此書ハ原本ノ直譯ナレド彼ノ國人ノ姓名ヲ直ニ譯シ  
テハ日本人ノ耳ニ慣レズシテ混雜ヲ生ズ可キ故ニ  
假ニ日本普通町人ノ名ト入替ヘ何屋何屋ト記セリ  
一賣買品ノ名モ日本人ノ見聞ニ稀ナルモノハ他ノ品ト  
入替タルユヘ或ハ直段ニ不相當ナルトモアル可シ又  
尺ト記シタルハ原書ノ「ヤアルド」ノ字ヲ譯シタルナリ  
一「ヤアルド」ハ我邦ノ曲尺三尺ニ當ル故ニ此書中ニ一  
尺トアルハ其實三尺ノ一ナリ  
一原書ニアル「シングル・エンタリ」ノ字ヲ此書ニ略式ト譯

市ノズミ  
シドウアルエンタリヲ本式ト譯シタレ氏此譯字ヨク  
原意ニ叶フモノニ非スシングルエンタリトハ一重ニ  
記スト云フ義ドウブルエンタリトハ二重ニ記スト云  
フ義ナリ追刻第二編ノ惣論ニモ云ヘル如クドウアル  
エンタリハ同シ高ノ借貸ヲ大帳ヘ二重ニモ三重ニモ  
扣テ互ニ平均スル趣向ナルユヘ斯ク名ケタルトリ故  
ニ此兩式ヲ一重扣ノ式二重扣ノ式ナド、翻譯セハ原  
書ノ意ニ當ランカナレ氏句調惡シクシテ朝夕ノ唱ニ  
不便ナルヲ恐レ無理ナガラモ略式本式ト譯シタルナ  
リ明治六年二月十日譯者記

帳合之法卷之一

第一編略式

惣論

福澤諭吉 譯

何等ノ學問ニテモ其本趣意ノ價ヲ知ラントスルニハ學  
問ノ由來ヲ尋テ其開ケタル順序手續ヲ心得ベキナリ此  
一義帳合ノ學問ニ於テ最モ然リ抑モ帳合ノ學ハ數學ノ  
一箇条ナレバ學者先生モコレヲ輕蔑ス可キ理ナシ然レ  
氏其由來ヲ見ルニ古ヨリ學校ニ於テトカク此學問ヲ重  
ンゼズシテ他ノムツカシキ學問ト同様ニ取扱ヒシヲナ

キハ心得違ト云フ可シ畢竟其日用ニ欠ク可ラザル事タルヲ知ラズシテ大切ナル學問ノ位ヲ誤認メシヨリシテ斯ル心得違モ出来シナリ憐ム可シ世上ノ人斯ノ如ク美ニシテ斯ノ如ク實ナルコノ帳合ノ法ヲバ少シモ知ラバシテ徒ニ古人ノ設ケシ算法ノ難問ヲ解カントシ或ハ將基ノサシ手ヲ工夫シテ心ヲ勞シ思テ焦シ自カラコレヲ是トシテ人モ亦コレヲ譽メ博學多識ノ名ヲ得テ耻ツル心ナク生涯得意ノ顔色ヲ爲シテコノ世ヲ渡リ其實用ノ働ニ至テハ僅ニ組合高賣ノ一事ヲ判斷スルニモ困却シ定リタル算法ヲ實地ニ施シテ貸借ノ用ヲ辨ズルトモ

能ハザル者多シ

人間ニ斯ル奇事アラントハ實ニ不思議ナルヲナリ今其本ヲ尋ルニ帳合ハ事柄ノ學問ニテ商人ノ仕事ニ近シト云ヒ見世先キノ臭氣アリト云ヒ太樽ノ取扱ハ不風流筵包ノ運送ハ殺風景ナド、テコレヲ賤シムルヨリシテ大ナル了簡違モ出来シナラン斯ノ如クコノ學問ヲ賤シク視做セシカ故ニ其由テ起リシ年代ヲモ知リ難クシテ唯コレヲ推量スルノミナレト古ヨリ慥ニ事實ニ行ハレタルハ疑アラザルナリ  
諺ニ云ク摠ナキトコワ工夫ノ母ナレト都テ世ノ學問ハ

吟味詮索ト工夫トニテ出来ルモノナレバ學問ハ摠ナキ  
トヨリ生ズル子ト云フモ可ナリ帳合ノ學問モ右ノ通り  
ニテ畢竟摠ナキトヨリ生シタル者ナリトノトハ天下  
般止ムヲ得ズシテ皆コノ學問ヲ日用ニ施スヲ以テ知ル  
可キナリ

人<sup>四</sup>ノコノ世ヲ渡ル有様ヲ形容シテ云ハゞ不足不自由ニ  
迫ラル、モノト云フ可シ渡世ノ工夫目途ハコノ不足不  
自由ヲ満足セントスルトヨリ外ナラズ即是レ人間ノ摠  
ナキ仕事ナリ<sup>五</sup>コノ摠ナキ場合ヨリシテ稼ノ道モ起リ儉  
約ノ心モ生シテ藝術ノ進ヲ助ケ文明ノ基ヲ開クナリ

人<sup>六</sup>生ノ不自由ヲ満足セシメンニハヨク心ヲ用テ怠ラガ  
レバ此地球ノ產物ヲ資テ餘アル可シ是レ天地ノ大ナル  
仕裁ナリ且人ノ事ヲ企テ術ヲ施スニモ其道際限アル  
ナレ  
人<sup>七</sup>ノ不足不自由ヲ計レバ其數擧テ云フ可ラズ隨テコレ  
ヲ満足セシムル方便モ亦甚タ多シ故ニ此職業ト彼ノ職  
業ト互ニ相依頼スルハ唯儉約ノ道ト云フ可キノミナラ  
ズ實ニ止ムヲ得ザルノ勢ナリ汝ハ額ノ汗ニテ汝ノ食ヲ  
食ヘトハ天ノ法則ニテ抑モコノ法則ノ定リシ其時ヨリ  
既ニ已ニ職ヲ分チ富ヲ分ツノ道ハ行ハレタルナリ



土地ヲ耕ス者ノ產物ハ以テ飢ノ不自由ヲ満足セシメ又  
 物ヲ織ル者ノ產物ハ人ノ身体ヲ被ヒ細工人ノ產物ハ人  
 ノ風韻ヲ悅バシメ學者ハ人ノ心ヲ養ヒ說法者ハ人ノ精  
 神ヲ開キ人足ハ物ヲ荷テ人ノ肩ヲ輕クスル等各互ニ依  
 賴シテ或ハ心ヲ慰メ或ハ身体ヲ快クシテ人々ノ不足不  
 自由ヲ満足セシムルナリ斯ノ如ク人々互ニ其愉快満足  
 ヲ交易スルヲ基ト為シコ、ニ經濟ノ一大法ヲ定メ其  
 法ヲ勵マシテ世ニ行ハレシムルナリ其經濟ノ一大法ト  
 ハ何ソヤ云ク商賣是ナリ  
 コノ交易ヲ便利ニスルタメニハ價ノ本位ヲ立テ、商賣

ニ取扱フ品々ノ位ノ高下ヲ定メザル可ラズコノ本位ヲ  
 立ル品物ニハ大低金ト銀トヲ用ユコノ金銀ハ亦以テ交  
 易ヲ行フ取次ノタメニモ用ルナリ開ケタル國々ニテハ  
 金銀ヲヨキ程ニ令テ貨幣ヲ造リ其價ヲ記ルスタメニ極  
 印ヲ押シテ證據ト為シ或ハ正味ノ貨幣ヲ用ヒ或ハコレ  
 テ書付ニ寫シテ其價ヲ用ヒ以テ商賣ノ便利ヲ達スルナ  
 リ  
 帳合ノ學問ハ様々ノ事ニ付キ大ナル益アルモノナレモ  
 其格別ニ人用ナル所ハ前条ニ云ヘル交易ノ扣ヲ為スノ  
 一事ニ在リ若シモコノ扣ナクバ交易ヲ為ス毎ニ一々通

用金ヲ用ユル答ナル可シ今コハニ帳合ノ法ノ一端ヲ示  
ス一尤ノ如シ

譬ヘバコハニハ兵衛ト云フ百姓ト山城屋ト云フ織物屋  
ト都合ニ住居シテハ兵衛ノ作出シタル穀物ハ我家肉ノ  
者ヲ養ヒ上ニ又鄰ノ家肉ヲモ養フ可キ程ニ多カラシ  
鄰ノ山城屋ニテ織リシ及物モ亦多クシテ我家ト鄰ノ家  
ト二軒ノ用ヲ為スニ十分ナラシ斯ル場合ニテハハ兵衛  
モ山城屋モ各其餘ル物ヲ持出シテ食物ト着物トヲ交易  
スルノミ其事甚タ易シ是等ノ交易ニハ固ヨリ和ヲ用ル  
程ノ一モアズ且又世ノ中ノ商賣ナルモノ是等ノ交易

ニテ事ヲ終ラバ如何ナル愚鈍ナル人物ニテモ其帳合ヲ  
見テ分リ兼ル一モナカル可シ然レモコハニ又趣ノ異ナ  
ル一アリ譬ヘハ山城屋ニテ差向キ飯米ノ入用アリテ鄰  
家ニ餘リタル米ヲ得ント思ヘトモ丁度其時自今ノ家ニ  
餘ル品物モナクシテ米ノ代リヲ與フ可キ方便ナキ一ア  
ラン依テハ兵衛ニ云ヒケルハ余ガ家ニハ今飯米ノ入用  
アレモ即時ニ代リテ渡スト銀ハズ君若シ余カ面目ヲ信  
ジテコレヲ貸ストアラバ今余ガ取掛リシ仕事ノ出来上  
リ次第直ニ代リノ品ヲ與フ可シトノ談シニテハ兵衛モ  
コレヲ策知シ乃チ山城屋ヘ米ヲ送りテ双方ノ間ニ約束

整ヒタリ扱コノハ兵衛ナル者生レ付極々記憶慥ナル男  
ナラバヨク此約束ヲ覺ヘ鄰ノ山城屋ハ貸アリテ何程カ  
ノ織物ヲ何月何日ニ受取ル可キ筈ナリトノヲ常ニ心  
ニ忘ル、<sup>十</sup>ナカル可シサレ<sup>十五</sup>世ノ中ニ斯ク記憶ヨキ人  
モ稀ナレバハ兵衛トテモ此約束ヲ唯自分ノ胸ニノミ記  
憶スルヲ不安心ニ思ヒ又鄰家ノ主人ノ記憶ノミヲ頼ニ  
スルモ安心ト思ハレズ故ニ何狀形アルモノヲ作りテ後  
ノ日ニ品物ヲ受取ル可キ證據ト爲シ假令ヒ以前ノ約束  
ハ忘ル、トモ或ハ其約束ヲ爲シテ事ニ關係シタル當人  
ハ不在ナルモ此證據ノミハ慥ニ存シテ双方ノタメニ便

利ヲラントテ願フ可シ即チ其證據トハ紙ニ書キタル扣  
ナリ此事ニ付キ約束ヲ踐ム可キ筈ノ人ト定タル相手ノ  
人ハ山城屋ナリ故ニハ兵衛ノ方ニテ扣ヲ作ルニ當然ノ  
書方ハ帳面ニ山城屋ノ名前ヲ記シテ其下ニ事ノ次第ヲ  
書留メ置ク可キナリ其体裁左ノ如シ

### 山城屋

ハ兵衛ヨリ米何俵買取り此直段金十圓ナリコノ代リ  
トシテ何月何日織物何反渡ス可キ旨コレヲ約束セリ  
譯者註日本流ノ帳合ナレバハ兵衛ノ帳面ニハハ兵  
衛ヲ主人ニ立テ山城屋ヲ相手ニ定メテ文ヲ作ルニ

へ帳面ノ文モ自カラハ兵衛ノ言葉ト為リ譬へハ米  
何俵山城屋へ賣渡シ此直段云々ト記スナレモ西洋  
流ノ帳合ニハハ兵衛ノ帳面ニ山城屋ト口取ノ場ヲ  
立テ、其名前ノ下ニ取引ノ次第ヲ書留メ恰モ他人  
ノ書キシ文言ノ如シ即是レ日本流ト西洋流ト帳合  
ノ異ナル一箇条ナリ故ニ西洋流ノ帳合ヲ見テ山城  
屋ニテモ大和屋ニテモ人ノ名前アリテ其下ニ借貸  
ノ扣アラバ其扣ハ名前ノ人ノ身ニ引受タル借貸ノ  
ノ有様ヲ書留メタルモノニテ借ハ其名前人ノ借ニ  
テ帳主ノ貸ナリ貸ハ名前人ノ貸ニテ帳主ノ借ナリ

ト思フ可シ

右ノ如ク記ス氏ハ事ノ次第明白ニシテハ兵衛ニモ自分  
所持ノ物ヲ他人ノ手ニ貸渡シタリトノ一ニ付キ今ノ  
證據アル可シ若シコノ類ノ約束何レモ皆コノ通りニテ  
入組ミシヲナクバ別ニ簡略ナル扣ノ法ヲ工夫スルニモ  
及バザルヲトレ氏人々ノ取引ハ甚々多キモノニテ譬へ  
バハ兵衛モ山城屋ノミヲ相手トスルニ限ラズ他人々  
ニモ借貸ノ約束アルベケレバ其帳合モ今一段行届キテ  
手数ノ省ク可キ法ヲ求メザル可ラズ

右ノ如ク記ス氏ハ事ノ次第明白ニシテハ兵衛ニモ自分  
所持ノ物ヲ他人ノ手ニ貸渡シタリトノ一ニ付キ今ノ  
證據アル可シ若シコノ類ノ約束何レモ皆コノ通りニテ  
入組ミシヲナクバ別ニ簡略ナル扣ノ法ヲ工夫スルニモ  
及バザルヲトレ氏人々ノ取引ハ甚々多キモノニテ譬へ  
バハ兵衛モ山城屋ノミヲ相手トスルニ限ラズ他人々  
ニモ借貸ノ約束アルベケレバ其帳合モ今一段行届キテ  
手数ノ省ク可キ法ヲ求メザル可ラズ

右ノ如ク記ス氏ハ事ノ次第明白ニシテハ兵衛ニモ自分  
所持ノ物ヲ他人ノ手ニ貸渡シタリトノ一ニ付キ今ノ  
證據アル可シ若シコノ類ノ約束何レモ皆コノ通りニテ  
入組ミシヲナクバ別ニ簡略ナル扣ノ法ヲ工夫スルニモ  
及バザルヲトレ氏人々ノ取引ハ甚々多キモノニテ譬へ  
バハ兵衛モ山城屋ノミヲ相手トスルニ限ラズ他人々  
ニモ借貸ノ約束アルベケレバ其帳合モ今一段行届キテ  
手数ノ省ク可キ法ヲ求メザル可ラズ



衛へ代金十圓ノ反物ヲ借ルト云フマデノ一トリ<sup>五</sup>事  
 ニ付キ何カ變リタル箇条ノ差起ル<sup>一</sup>アラバ其箇条ハ唯  
 コノ借ヲ残ラズ返ス<sup>一</sup>款<sup>一</sup>少シク返ス<sup>一</sup>款<sup>一</sup>残ラス返シテ餘ル  
 ホドニ品物ヲ渡ス<sup>一</sup>款<sup>一</sup>或ハ少シモ返サズシテ重子テ又借  
 ル<sup>一</sup>款<sup>一</sup>是等ノ箇条ヨリ外ナラザルナリ故ニ人ニ物ヲ貸シ  
 ラコト取引スルニハ唯二ツノ事アルノミ即チ借ルト  
 借ラル<sup>一</sup>トノ二箇条ナリ<sup>三</sup>ノ二箇条ハ如何ニモ相對シ  
 相反シタルモノニテ兩様相同ジキ<sup>一</sup>ハ互ニ相消シテ何  
 モナキニ等シキナリ  
 故ニコノ相反對シタル兩様ノ箇条ヲ其事ニ關係セル人

ノ名前ノ下ニ記シテ其事柄ヲ明ニシ一目ニテ兩様ノ釣  
 合ヲ分ルヤウニ書留ル<sup>一</sup>トハ甚タ易シ其例左ノ如シ

借 山城屋 貸

一月 <sup>二</sup> 米	拾俵	一月 <sup>五</sup> 大巾羅紗	一丈	一。
三月 <sup>一</sup> 麦	拾五俵	二月 <sup>五</sup> 金	五	五。

此書方ハ用來リニテ簡略ナレ<sup>一</sup>氏詳ニシテ實用ニ叶フモ  
 ノトスコ<sup>三</sup>レ<sup>一</sup>勘定書ト名ク即チコノ書付ノ通りニテ山  
 城屋<sup>三</sup>トノ取引ヲ記シタルモノナリ<sup>一</sup>書付<sup>五</sup>ヲ上下二段ニ分  
 チ上ノ段ニハ山城屋ヨリ我方ヘ對シテ同人ノ借ノ高ヲ  
 記シ下ノ段ニハ我方ヨリ山城屋ヘ對シテ我方ノ借ヲ記

シタルガ故ニ双方ノ高ヲ差引シテ過不足ヲ見レバ其過不足ハ我方ヨリ山城屋ヘ貸シタルモノ歟山城屋ヨリ我方ヘ貸シタルモノ歟兩様ノ外ナラズ即チ山城屋ガ我ニ借ルヲ我山城屋ニ借タルヨリ多クレバ其差引ノ差ハ我方ノモノニテコレヲ我元手ノ手當ト視ル可キナリ之ニコトカヘ我方ヨリ山城屋ニ借ルト同人ガ我ニ借リタル高ヨリモ多クレバ其差引ノ差ハ山城屋ノモノナレバ即チ同人ノ元手ニシテ我方ノ借ナリ右ノ勘定書ニ記シタル事柄ヲ解キ明ラカニスレバ左ノ如キナリ即チ一月二日山城屋ナル者我方ヨリ十圓ニテ米拾俵ヲ買テ其代ヲ

拂ハズ同月十五日大中ノ羅紗一丈ヲ我方ヘ賣リ其代ニテ先ノ借ヲ拂フニ十分ナリ故ニ勘定書ノ上下ニ記シタル金ノ高正シク相對シテ差引ノ過不足ナク同ジ時ニ同ジ位ノ物ヲ交易シタルニ異ナラズ又三月一日ニ同人十二圓五十錢ニテ麥拾五俵ヲ買テ其時ニ代金ヲ拂ハズ四月一日ニ至テ正金五圓ヲ我方ヘ拂フタリコレニ由テ山城屋ノ勘定ニハ十二圓五十錢ト五圓トヲ差引シテ其差ダケ不足ナルニ同人ハ我方ヘ對シテ七圓五十錢ノ借アルモノト云フナリ右ノ次第ニテ我方ヘハ目ニ見ル可キ書付ノ證據アリテ物ヲ失フナシ若シ此書付ヲ用ヒ



字ヲ記スニハ先ツ金ノ位ノ場所ヲ定メ圓ノ位ノ鬼ニ  
一。トアレバ十圓ナリ。ニトアレバ十二圓ナリ。三。ト零ノ  
丸ヲ二付レバ百圓。一。ト三付レバ千圓ナリ。錢ノ位ノ  
鬼ニテ五。トアレバ五十ノ疋ニテ五十錢ノ一ナリ尚詳  
ナルハ九例ニ見ヘタリコレモ初學ノ人ニハ合点シ難  
キ。アランカト思ヒシナレバ早晚一度ハナルデ西洋  
流ニナル可キ世ノ中ナレバ最初ヨリ思切テ其流ニ從  
ヒシナリ念ノタメ此山城屋ノ勘定書ヲ日本流ニ記シ  
テ左ニ示ス。ユヘ両方照合セテ流儀ノ異ナル鬼ヲ知ル  
可シ日本流ナレバ帳面ハ横帳ヲ用ヒテ上段下段ノ區

別ナク帳面ニ口取ノ座ト云フモノアリテ譬ヘバ山城  
屋ノ座ノ鬼ヲ開キ見レバ其書方左ノ如シ

山城屋

出金拾圓  
入金拾圓  
出金拾圓  
入金拾圓

米拾俵代  
羅紗拾俵代  
麦拾俵代  
正金拾圓

右ノ如ク横ニ長ク書下ニ差別ノ氏ハ出ト入トヲ一ツ  
拾ヒ上ケテ勘定スルガ日本流ノ大法ナリ



右ノ次第ニ付キ双方ノ間ニ物ヲ交易シテ一方ハ其物ヲ  
直ニ渡サズシテ時ヲ延引スル氏ハ其事柄ヲ書留ノテ扣  
ヲ作ラザル可ラズ帳合ノ法トハ即チコノ扣ノ書留ヲ元  
ニシテ用ヲ便ズルナリ  
前ニ記シタル趣ニ由テコレヲ見レバ明ニ左ノ箇条ヲ知  
ル可シ即チ勘定書ハ上下二段ニ分チ上ヲ借ト名ケ下ヲ  
貸ト名ケ借ノ方ヘハ其名前ノ人ノ我方ヘ借りタル高ヲ  
記シ貸ノ方ヘハ其人ニ對シテ我方ノ借ヲ記セリ借ノ方  
多ケレバ其多キダケノ差ハ我貸シタル高ナリ貸ノ方多  
ケレバ其多キダケノ差ハ我借りタル高ナリ故ニ借ノ方

ニ餘リタル高ハコレヲ我身代又ハ元手トモ云フ可シ貸  
ノ方ニ餘リタル高ハコレヲ我借財又引負トモ云フ可キ  
ナリ  
往古帳合ノ法ノ始テ世ニ行ハレシ頃ハ商賣スルニモ前  
条ニ記セル勘定書ノ法ノミヲ用ヒテ不自由モナカリシ  
ナラシ此時代ニハ商賣ノ道モ狭キナレバ唯其出入  
借貸ヲ書面ニ記シ置キ人ノ記憶ヲ頼ニセズト云フマデ  
ノミニテ差支ナカリシナリサレバ世ノ中ノ商賣ニ借貸  
ノ法次第ニ手廣ク行ハルノ場合ニ至テハ其商賣ノ事  
ニ付キ日々差起ル所ノ手續ヲ書留ノザル可ラズ故ニ今

世間一般ノ仕来ニテ商人ノ家ニハ必ズ日記帳ヲ作り毎日差起ル所ノ事柄ヲ其時ニ隨テ記シ置クノ風トナレリ今コ、ニ日記帳並ニ大帳ノ書法ヲ示サントメ一例ヲ舉ル下左ノ如シ

明治六年

# 日記帳

一月三十日

東京三田 福澤屋諭吉

一月 大和屋

大巾羅紗	五尺	四四〇。セ	二〇
びろ	五尺	四一五。セ	一五
		借	

二月 大和屋

黒羽二重	三丈	四一、二五セ	三七五。
フラ子ル	武丈五尺	五。セ	一二五。
黒地形付縮	五丈	四一、五。セ	一五
小巾羅紗	五尺	四三。〇	一五
		貸	
差引金ニテ		七五	

右ニ記シタル日記帳ノ書留ヲ大帳ヘ寫スニハ其書方左ノ如シ大帳トハ勘定ノ差引書ヲ帳面ニ作リタルモノナリ

貸

七五

四十二  
日 記帳ノ便利ナルヲ二様アリ第一日々商賣ノ手續ヲ記  
シテ順序ヲ誤ラズ其便利一ナリ日記帳ニ商賣取引ノ事  
ヲ委シク記セバ大帳ヘハ唯其勘定ノミヲ寫シテ手數ヲ  
省キ大帳ノ面ヲ簡略ニスルヲ得ベシ其便利二ナリ  
略式ノ帳合ニ用ル日記帳ト大帳ニハ唯他人ヲ相手ニシ

タル商賣ノ取引ヲ記スノミナレ氏事ニ念ヲ入ル、人ハ  
金銀ノ出入、他ノ手形ノ受取渡シ、自分ノ手形ノ仕出シ、其  
手形ノ引替等、或ハ他人ニ關係ナキ一ニテモ詳ニコレヲ  
書留ノザル可ラズ故ニ是等ノ事ヲ記スタメニハ別ニ又  
帳面ノ種類アリ左ノ例ハ其最モ簡略ナルモノナリ

有金

河内屋ヨリ差引受取

—	○
<u>五</u>	○
○	○

五〇

店入用拂雜費帳ノ通り  
和泉屋へ一日限ニテ貸ス  
大坂屋ヨリ品物代受取  
伊賀屋ヨリ同断  
伊勢屋へ差引拂切  
店小賣代

手元残金

送高

二、二七八七五	三、三五三七五	一、一〇	七五	一八七五	一七五	五〇〇	四〇〇	二、二七八七五	三、三五三七五
---------	---------	------	----	------	-----	-----	-----	---------	---------

# 手形帳

請取口手形

番	手形請取 ノ月日	差図人又 請取人	引受人又 仕出方	月日	日限	渡シ日	金高	月日始末
一	明治六 一ノ一	山城屋	大和屋	明治五 十二ノ一	六十日	明治六 二ノ二	五〇〇	明治六 二ノ二 拂ス
二	一ノ五	河内屋	和泉屋	明治六 一ノ五	三十日	二ノ七	一〇〇	二ノ七 拂ス
三	二ノ一	大坂屋	伊賀屋	一ノ十	九十日	四ノ十三	一五〇	
四	二ノ十五	伊勢屋	志摩屋	二ノ十五	六十日	四ノ十七	三〇〇	



拂口手形

番	手形渡差圖人又 ノ月日請取人	引受人又 仕出方	月日	日限	渡シ日	金高	月日始末
	明治六					四 セン	明治六
一	一ノ十二 尾張屋	此方	一ノ十二	十五日	一ノ三十一	一五〇	一ノ三十 拂スル
二	三ノ一 三河屋	此方	三ノ一	九十日	六ノ二	七五〇	
三	三ノ一 遠島屋	此方	三ノ一	六十日	四ノ五	三〇〇	

譯者註 手形トハ為替手形ノ類ヲ云フナリ譬ヘバコノ  
帳面ヲ駿河屋ノ帳面トシ駿河屋ハ兼テ山城屋並ニ大  
和屋ヘ取引スル者ニテ山城屋ヨリ駿河屋ヘ渡ス可キ  
金五百圓アルキ山城屋ニテ手形ヲ作テ駿河屋ヘ渡シ

コノ手形ヲ證據ニシテ五百圓ヲ大和屋ヨリ受取ル可  
シト差圖スルニアリ然ルキハ山城屋ハ差圖人ニテ大  
和屋ハ引受人ナリ或ハ兼テ大和屋ヨリ金子五百圓ヲ  
拂フ可シトノ手形ヲ仕出シテコレヲ山城屋ヘ渡ス歟  
又ハ他人ヘ渡シタルモノ次第ニ受取渡シノ人ヲ經テ  
遂ニ山城屋ノ手ニ入ルニアレバ山城屋ハコノ手形ノ  
裏ニ自分ノ姓名ヲ記シテコレヲ駿河屋ヘ渡スベシ駿  
河屋ハ正金五百圓ノ代リニコノ手形ヲ受取リコレヲ  
大和屋ヘ渡シテ金ト引替ニスルナリ然ルキハ山城屋  
ハ請取人ニテ大和屋ハ仕出方ナリコノ手形ヲ受取口

ノ手形ト云フ○本文ノ表ニアル番トハ諸方ヨリ駿河  
屋ヘ手形ヲ受取タル順番ヲ記シタルモノナリ○手形  
受取ノ月日トハ駿河屋ヘ手形ヲ受取タル月日ナリ○  
差圖人請取方引受人仕出方ノイハ前ニ詳ナリ○月日  
トハ山城屋歟又ハ大和屋ニテ手形ヲ作りシ日ノ月日  
ナリ○日限トハ手形ヲ作りシ日ヨリ金ヲ渡ス日マデ  
約束ノ日限ナリ○渡シ日トハ大和屋ニテ金ヲ渡ス日  
ナリ○金高トハ手形面ノ金ノ多少ナリ○月日始末ト  
ハ何月何日如何ナル始末ニナリシヤノ次第ナリ  
拂口手形ノ次第ハ左ノ如シ尾張屋ニテ差圖ノ手形ヲ

作テ直ニ駿河屋ヨリ金ヲ受取ル歟又ハコノ手形ヲ他  
人ニ渡シテ駿河屋ヨリ金ヲ受取ラシムルナリ然ルギ  
ハ尾張屋ハ差圖人ナリ或ハ又駿河屋ニテ作りタル手  
形ヲ尾張屋ヘ受取り尾張屋ニテコレニ裏書シテマタ  
駿河屋ヘ返シ金ヲ受取ルトモアリ然ルギハ尾張屋ハ  
受取方ナリ右何レモ金ヲ拂フ者ハ駿河屋ナルユヘ引  
請人仕出方ハ此方ト記セリ  
右ハ略式ニ用ル帳合ノ簡略ナル仕方ナレモ高賣ノ扣ニ  
ハ欠ク可ラザルモノニテ一通リニ用辨ニハ十分ナル  
可シコノ第一編ノ教ニ於テハ略式ノ諸法ヲ記シ稽古人

チシテ次第ニムツカシキ裏ニ進ミ第二編ニ説ク所ノ本  
式ノ帳合ヲ解スルニ易カラシメントスルナリ

### 本文ノ問題

- 一 學問ノ本趣意ノ價ヲ知ルニハ如何ス可キヤ
- 二 コノ一義帳合ノ學問ニ於テ最モ然ルハ何故  
帳合ノ學問ヲ他ノ學問ト同様ニ取扱ハザル  
ハ何故
- 三 人ノコノ世ヲ渡ル有様ハ如何
- 四 コノ掟ナキ場合ヨリ何事カ起ルヤ
- 五

- 六 如何シテ人生ノ不自由ヲ満足セシム可キヤ
- 七 人ノ不足不自由ヲ満足セシムルタメ何等ノ  
仕方世ニ起ルヤ
- 八 人ノ種類身分ノ二三ヲ舉ケ其互ニ依頼スル  
模様ハ如何

- 九 商法ノ基ト爲リテ其法ヲ勵マスモノハ何モ  
ノナルヤ

- 十 コノ交易商賣ヲ便利ニスルハ何モノナルヤ
- 十一 コノ本位ヲ立ルニハ何モノヲ用ルヤ
- 十二 帳合ノ學問ノ格別ニ八用ナル所ハ何事ニア



ルヤ

十三 八兵衛ト山城屋トノ間ニ穀物ト織物トヲ同時ニ交易セリ是等ノ交易ニ扣ヲ用ルハ實ニ必用ナルヤ

十四 織物ノ渡方延引スレバ何故ニ紙ニ書キタル扣ヲ用ルヤ

十五 上ニ示シタル例ニ於テ八兵衛ノ方ニテ扣ヲ作ルニ其當然ノ書方ハ如何

十六 コノ扣ハ明白ナルヤ

十七 今一段行届キテ手數ヲ省ク可キ法ヲ求ルハ

何故

十八 右ノ扣ニ著ハシタル正味ノ事柄ヲ云ヘバ如何

十九 コノ事ニ付キ起ル可キ變ハ如何

二十 人ニ物ヲ貸シテ取引スルニ幾許ノ箇条アルヤ

二十一 コノ二箇条ノ釣合ハ如何

二十二 コノ相互シタル二箇条ヲヨキヤウニ記ス法ハ如何

二十三 コノ書方ヲ何ト名ルヤ

二十四 コノ勘定書ニハ何ヲ記シタルヤ

二十五 勘定書ノ上下ノ段ニハ何ヲ記スヤ

二十六 勘定書ノ双方ノ高ヲ差引シタル過不足ハ何

モノナルヤ

二十七 山城屋トノ勘定書ニアル事柄ヲ解キ明ラカ

ニスレバ何事ナルヤ

二十八 双方物ヲ交易シテ一方ハ直ニ其物ヲ渡サズ

ルキハ如何ス可キヤ

二十九 コノ扣ヲ元トシテ用ヲ便ズルモノハ何モノ

ナルヤ

三十 勘定書ハ幾段ニ分ツヤ

三十一 コレヲ何ト名ルヤ

三十二 借ノ方ヘハ何ヲ記スヤ

三十三 貸ノ方ヘハ何ヲ記スヤ

三十四 借ノ方多クレバ如何

三十五 貸ノ方多クレバ如何

三十六 借ノ方ニ餘リタル高ハ何物ナルヤ

三十七 貸ノ方ニ餘リタル高ハ何物ナルヤ

三十八 往古ヲ按ズルニ其勘定書ノ法如何ナリシヤ

三十九 コノ法ノミニテ差支ナカリシトハ何故

四十 今世借貸ノ商賣繁昌ノ日ニ至テハ右ノ外何

等ノ扣入用ナルヤ

四十一 世間一般商人ノ家ニ何等ノ帳面ヲ用ルヤ

四十二 日記帳ノ便利如何

四十三 畧式ニ用ル日記帳ト大帳ニハ何等ノ取引ヲ

記スヤ

四十四 事ニ念ヲ入ル、人ハ右ノ外ニ何等ノ事ヲ記

スヤ

四十五 如何シテコノ事ヲ記スヤ

### 略式帳合第一式

日記帳並ニ大帳ヲ用ユ但シ諸帳面一般ノ始末ハ記  
サズシテ唯日記帳ト大帳トノ用法ヲ示スノミ

端書

左ニ示ス所ノ法式ハ帳合ノ最モ簡略ナルモノニテ即チ  
日記帳ト大帳トノ事ヲ記スナリ此式ハ唯一通りノ手引  
草ニテコノ二帳ノ体裁ト用法トヲ示スマデノ一ナリ但  
シコノ二帳ハ其用ノ最モ廣キモノナリ  
商人タル者ハ何時ニテモ自分ノ商賣ノ有様ヲ慥ニ知ル  
ト緊要ナレバ常ニ元手ノ手當ト諸向ノ拂ロトヲ調べ明

ニコレヲ書留メザル可ラズ<sup>三</sup>即是レ帳合ノ大趣意ナリ左  
ニ示ス所ノ日<sup>四</sup>記帳ト大帳トニテハ未ダ全ク其趣意ヲ盡  
サビレ氏他帳ノ用法ヲ稽古スル前ニ大凡ソ元手ト拂口  
トノ模様ヲ合点スルタメ先ツコノ二帳ノ事ヲ心得ザル  
可ラズ

<sup>五</sup>略式ニ用ル大帳ハ高賣ニ取引スル人々トノ關係ヲ示ス  
モノナレバ唯他人ヲ相手ニシタル勘定ノミヲ記スナリ  
故ニ日記帳ニアル事ハ盡ク大帳へ寫シ日記帳ニモ唯他  
人トノ取引ヲ記スノミ

<sup>七</sup>略式ニ用ル日記帳ハ簡畧ナルモノニテ大帳ノ面ニ借方

トナリ或ハ貸方トナル人ノ名前ヲ記シ借方ナレバ借ノ  
字ヲ記シ貸方ナレバ貸ノ字ヲ記シ其次ニ金ノ高ト事ノ  
次第ヲ記シ然ル後コノ日記帳ノ書留ヲ大帳ニ寫シ取引  
ノ始末ヲ示シテ他人トノ勘定ヲ明ニスルナリ

此第一式ニ示ス所ノ帳合ハ高賣ノ數モ少ナク其事柄モ  
入組ジイナシ<sup>十</sup>元來高賣一体ノ始末ヲ記ス趣意ニハ非ラ  
ス唯大帳ノ面ニ顯ハル、扣ノ体裁ヲ示スマデノ一ノミ  
ナリ

學者宜シク帳面ノ体裁ト書方トヲ心得テ試業ヲ誤ル  
ナク尚進テ次ノ法式ニ入り次第ニ研究ス可キナリ但シ

試業ノ題ハコク第一式ノ末ニ出セリ

第一式  
明治六年  
七月一日  
日記帳

東京三田  
福澤屋諭吉

二丁山城屋	上茶喜撰	拾斤	一二セク	一	一二	借
	同玉露	五斤			三	
	白砂糖	貳拾斤	一二セ	一日		
二丁大和屋	干葡萄	五箱二十斤八	二〇セク			借
					五	
					五二	



一  
日

借

借

七  
五  
〇

九

三日

八

13

三七九

六  
七  
五

五日

四  
五  
〇

六

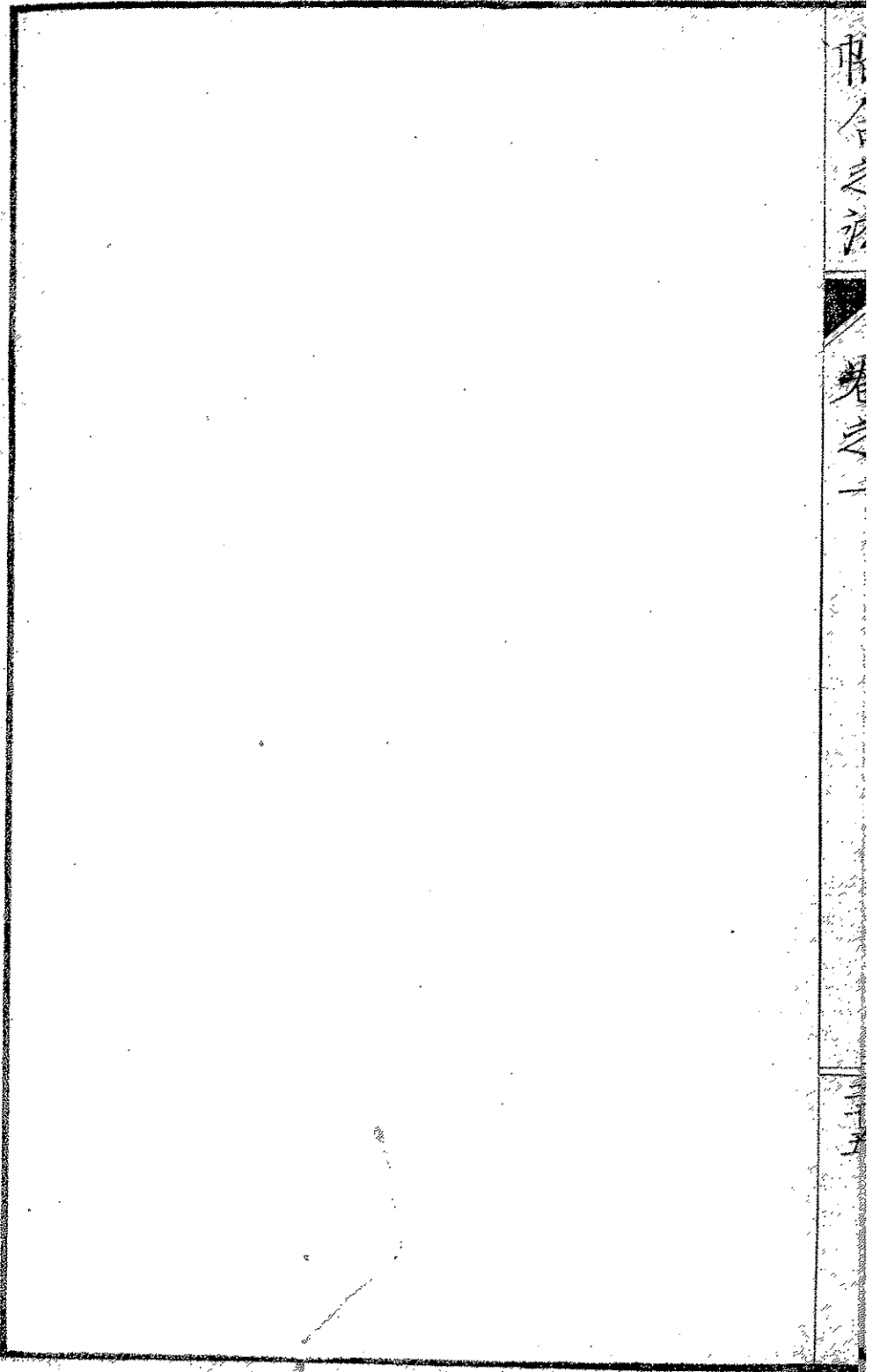
一三二

一一八二

三 志摩屋	塩漬豚肉 麦樽	四 尾張屋 白砂糖 三箱各五百斤入	三 志摩屋 品物代送牀ノ通り 志摩屋渡リノ差圖ヘ 尾張屋ノ差図ニテ
六日	七日	日	日
借	一一 九〇	貸	貸
一〇 一	一〇 一	三〇 〇	一〇 一

四 三河屋 棒砂糖 同粉 たゞ一砂糖	四 遠州屋 米
八日	十日
借	借
九七 八七 六〇 四 九	三七 五 七 三 五 四





第一式

# 大帳

借

山城屋

貸

月一

品物

丁一

五二。

借

大和屋

貸

月一

干葡萄

丁一

五

干葡萄

干葡萄

干葡萄

三 申 八 三 六 一

借 河内屋 貸

七月 日一	諸品	丁二	七						
----------	----	----	---	--	--	--	--	--	--

借 和泉屋 貸

七月 日一	諸品	丁二	七五。	七月 日二	差別金ニテ	丁二	五		
----------	----	----	-----	----------	-------	----	---	--	--

借 大坂屋 貸

七月 日三	麦粉 麦俵	丁三	八						
----------	-------	----	---	--	--	--	--	--	--

借 伊賀屋 貸

七月 日三	諸品	丁三	六七五						
----------	----	----	-----	--	--	--	--	--	--

借 伊勢屋 貸

七月 日五	諸品	丁三	一一八二						
----------	----	----	------	--	--	--	--	--	--

借 志摩屋 貸

七月 日六	諸品	丁四	一。	一	七月 日七	尾張屋ノ差込ニテ	丁四	一。	一
----------	----	----	----	---	----------	----------	----	----	---

三 三 八 三 六 一

借

尾張屋

貸

七月

志摩屋渡リ差圖

丁四  
一。一

七月

品物代

丁四  
三。。

借

三河屋

貸

七月

諸品

丁五  
七三

借

遠州屋

貸

七月

米 子八百斤

丁五  
五七

〔譯者註〕第一式日記帳ノ四丁志摩屋ノ借百零一圓、貸モ

亦百零一圓、尾張屋ノ貸三百圓、借百零一圓、トアリ其取

引ノ勘定左ノ如シ此帳面ノ主人ヲ福澤屋ト為シ志摩

屋ハ福沢屋ヨリ豚肉一樽ヲ十一圓、白砂糖三箱千五百

斤ヲ一介六錢ガヘニテ買ヒ此代金九十圓、豚肉代ト合

シテ百零一圓ノ高、福澤屋ニ借ナリ尾張屋ハ代金三百

圓ノ品物ヲ福沢屋ヘ賣リ三百圓ノ貸アリ然ルニ尾張

屋ト志摩屋トハ兼テ取引アル者ニテ尾張屋ヨリ福沢

屋ヘ差圖シ右三百圓ノ内百一圓、タケ志摩屋ノ買受ケ

シ品物代トシテ引去ル可シトノ抵合ニ由リ尾張屋ノ

名前ノ裏ニ志摩屋渡リノ差圖ノタメ百一田借ト記シ  
志摩屋ノ裏ニハ尾張屋ヨリノ差圖ニテ百一田貸ト記  
セリ故ニコレヘ寫シ志摩屋ハ諸品ノ代ニテ百一田借  
尾張屋ノ差圖ニテ百一田貸ト為リ借貸相對シテ差引  
ナク尾張屋ハ志摩屋渡リノ差圖ニテ百一田借品物代  
ニテ三百田貸ト為リ三百田ノ内ヨリ百一田引キ残り  
百九十九田此高ハ全ク尾張屋ヨリ福澤屋ヘノ貸ニテ  
福澤屋ノ借財ナリ

日記帳ノ名前ノ上ニ丁數ヲ記シ譬ハ山城屋ノ上ニ  
ハ一丁伊賀屋ノ上ニハ三丁トアリコレハ大帳ノ見出

シニテ山城屋ノ事ハ大帳ノ一丁ニ寫シ伊賀屋ノ事ハ  
三丁ニ寫シタリトノ印ナリ大帳ノ方ニモ丁數ヲ記シ  
テ日記帳ノ見出シト為シ双方照合ハセテ帳面ノ調ヲ  
便利ニシタルモノナリ

舊古人ノ試業第一番

左ニ示ス所ノ取引ヲ第一式ノ法ニ從ヒ正シク日記帳ニ記シテ又コレヲ大帳ニ寫ス可シ

覺

一月一日山城屋へ麥粉一石拾圓替ニテ五石賣渡シ代金差引大和屋へコッロイ一斤十一錢替ニテ六斤上茶一斤七十五錢替ニテ五斤賣渡シ差引金二圓受取タリ  
○同二日河内屋ヨリ蜜柑一箱五十錢替ニテ五十箱芋一俵二圓五十錢替ニテ五十俵買入レ代金差引○同三日和泉屋へ蜜柑一箱七十五錢替ニテ十箱上茶一斤七

十五錢替ニテ三斤賣渡シ代金差引○同四日河内屋へ差引金百圓ヲ拂タリ○同五日大坂屋へ大中羅紗一尺三圓替ニテ二尺白砂糖一斤八錢替ニテ五十斤金巾一尺十錢替ニテ三大賣渡シ代金差引○同七日伊賀屋ヨリ芋一俵二圓五十錢替ニテ十俵買入レ代金差引○同八日伊勢屋へ芋一俵三圓替ニテ五俵蜜柑一箱六十八錢替ニテ十箱賣渡シ代金差引○同十日河内屋へ正金五十圓ヲ拂タリ○同十一日志摩屋へ大中羅紗一尺五圓替ニテ一大賣渡シ正金五十圓ヲ受取タリ○同十二日尾張屋へコッロイ一斤十二錢替ニテ八斤極上茶一

斤一圓替ニテ三斤。粉砂糖一斤十二錢替ニテ五十斤賣渡シ代金差引

譯者註代金差引トハ品物ヲ賣買シテ現金ニ拂ハス以前ノ勘定ニテ差引スル歟又ハ其後ニ他ノ品物ヲ渡ス歟又ハ正金ヲ拂フ歟何レニモ即時ニ代金ヲ拂ハズシテカケニスルナリ

本文ノ問題

第一式ニハ何等ノ事ヲ記スヤ

此式ハ何用ヲ爲スヤ

帳合ノ大趣意ハ如何

四

第一式ニテ全ク此趣意ヲ達ス可キヤ

五

略式ニ用ル大帳ニハ何ヲ記スヤ

六

日記帳ニハ何ヲ記スヤ

七

略式ニ用ル日記帳ニ書留ル体裁ハ如何

八

コノ書留タル事ヲ何ヘ寫スヤ

九

コレヲ寫シテ何事ヲ明ニスルヤ

十

コノ第一式ニ於テ高賣一体ノ始末ヲ見ル可

キヤ

略式帳合第二式

吳服太物商賣ノ日記帳。大帳金銀出入帳ヲ記シ末段ニ商賣ノ始末ヲ示ス但シ商賣ハ繁昌ナリ

端書

此第二式ニ於テハ第一式ヨリモ更ニ事ヲ詳ニシテ一休ノ始末ヲ記シ帳合ノ趣意ヲ十分ニ示シテ何時ニテモ我商賣ノ有様ヲ明ニ知ル可キナリ  
金銀出入帳ハ其功用ノ大ナルモノナリ即チコレヲ用レバ金ノ請取ト渡方トヲ記シ手元ニアル有金ノ高ヲ知ル可シ<sup>三</sup>商賣ニ用ル諸帳面ノ内ニテ此帳面モ亦甚ダ大切ナ

ルモノトス故ニ物事ニ念ヲ入ル、商人ハ此帳面ヲ用ヒズシテ事ヲ行ハントスル者ナシ<sup>四</sup>手元ノ金ハ何時ニテモコレヲ計ヘテ其高ヲ知ル可シトハ<sup>五</sup>虫比唯コレヲ計ヘテ其高ヲ知ルノミニテハ或ハ不相當ノ事ニ金ヲ費シ或ハ金ノ紛失スルヲアルモコレヲ<sup>六</sup>糺シテ證據ヲ求ム可キ術ナシ故ニ今金ノ出入ヲ正シク記シテ其出入ノ差ト現ニ手元ニアル有金ノ高ト付合フハ金ノ取扱ニ付キ間違ナキ證據ト爲ルノミナラズ一体ノ商賣モ慥ニ行ハレシトノヲ見ル可シ此仕方ヲ除クノ外ハ他ニ間違ヲ糺ス可キ方便アルヲナシ



金銀出入帳ヲヨク用レハ何時ニテモ有金ノ高ヲ知ル可  
 キノ便利アリコヽニ此帳面ヲ用ルモ即チ其趣意ノタメ  
 ナリ今コノ第二式ニ用ル出入帳ノ体裁ハ一般ノ商用ニ  
 適當シテ最モヨキモノニモ非ザル可ケレ<sub>レ</sub>極テ簡略ニ  
 シテ解シ易キモノナリ通例商人ノ家ニテハ毎日商賣ノ  
 終ニ金銀出入帳ヲシメ切り其殘金ヲ翌日ノ元金ニ廻ス  
 スノ風ナレ<sub>レ</sub>左ニ示ス所ノ例ニハ便利ノタメ假ニコノ  
 風ヲ改メ二箇月ノ金銀出入ニ初ノ一月ハ一七日毎ニシ  
 メ切り後ノ一月八月ノ末ニ一度ヒシメ切り唯其用法ヲ  
 解キ示スノミ

第二式ハ第一式ヨリモヤヽ深キ處ニ步ヲ進メタルモノ  
 ニテ其進歩ノ模様ハ末段ノ惣勘定ニテ見ル可シ但シコ  
 ノ惣勘定ハ金銀出入帳ノ下ニ記シコレヲ一見スレバ帳  
 合ノ大趣意ヲ知ル可キナリ  
 商賣ノ帳面ヲ取扱フ<sub>レ</sub>ニ付キ最モ願フ可キ一事ハ取引  
 ノ始末ヲヨク明ニシテ誤ナカラシムルノ働ナリ故ニ學  
 者コレヲ稽古スル<sub>レ</sub>諸式ノ末段ニ記セル惣勘定ヲ大切  
 ナルモノト思ヒ格別ニ心ヲ用ヒザル可ラズ殊ニ其惣勘  
 定ヨリ引出シタル定則ハ最モ緊要ナルモノナリ  
 〔譯者註〕本文ニ金銀出入帳ヲ一七日ニシメ切ルト記シ

テ例ニ示ス出入帳ニハ六日毎ニ終レリ彼ノ國ニテハ  
 一七日ノイヲ一井イキト唱ヘ一井イキニ一日ノ休日  
 アリ即チソソデイナリ此日ニハ商賣ナキユハ一七日  
 ト云フモ其實ハ六日ノ仕事ナリ

第 二 式  
 明治 六年  
 四月 一日  
 日記帳

甲州屋社中		伊豆屋	
品物代目録ノ通		品物代目録ノ通	
金巾	一丈二寸	金巾	一丈二寸
打ひも	二丈	打ひも	二丈
ふろし地木綿	二丈	ふろし地木綿	二丈
大巾羅紗	二丈	大巾羅紗	二丈
田三〇〇	一五	田三〇〇	一五
一九二〇		一九二〇	
四〇〇〇		四〇〇〇	
貸		借	

丁  
 三  
 丁  
 三  
 丁  
 三

二 相摸屋

ちりきんぎょ

きんぎょ

四一

一五

借

系織

式大

四二五七

二五

二 武蔵屋

裏地縮

式大

四九

五〇

借

装束飾類

一〇

六〇

三 安房屋

フラ子ル

六尺

五〇セ

三

借

縮ぎ

式大

四一五〇セ

一八

二一

三 上總屋

紋縮緬

式大

四一五〇セ

一八

借

極上大巾羅紗

六尺

四四〇

二四

四二

二 伊豆屋

差引金ニテ

賃

一〇

三 下總屋

木綿ふん地

式大

七五セ

一八七五

借

女物くつ

六尺

四一〇

六

更紗

式大

一五セ

一八〇

二六五五

四丁 常州屋

十日

博多帯地

式丈八尺

田二〇〇久

九〇

借

紋紗

式丈

十日

一五七

七五〇

三丁 下總屋

十日

差引金

貸

一五

四丁 近江屋 (内室用)

同日

麻子拭

十式

借

紋金巾

式丈

二五七

二五〇

海氣

式丈四尺

田一五〇

二一

二九五〇

一丁 伊豆屋 (息女用)

十日

手袋

式丈

更紗

式丈式尺

借

不た人

三組

二五七

七五

糸

八五

十日

四七

三二

三八七

四丁 美濃屋

十日

地忌紗

式丈

装束飾

十日

一五

三五〇

四丁 常州屋

十日

飛彈屋ヨリ差引勘定ノ差図

貸

五七五〇

寺 飛彈屋

十百

借

常州屋渡リノ差因テ

十九百

寺 近江屋

借

本地木綿

式大

五〇七二

一〇

毛織羽織地

二大

三〇

九

男物足袋

三組十二

二百

三

二二

寺 飛彈屋

借

フランス羅紗

式大

四四〇〇久

四〇

花色袂父

式大

一三七

六五〇

太織つむぎ

式大

一二七

二四〇

寺 信濃屋

借

正金ニテ

廿百

貸

綿びろくど

式大八

二五七

三七五

綾絹

二大

三三七

九九〇

革手袋

六對

七五七

四五〇

六七〇五

五〇

秋付紗

式大

七五七二

七五〇

緋ぶら

六尺

一〇七

六〇

大和錦

式大

二

縫糸

十五

四七

四〇

一〇五

廿七日

三十一

今 野州屋		廿七日	
黒綿子	六尺	田二〇。〇	一 二
麻手拭	一組十二	五。七	六
男ものくつ足袋	六足	二五セ	一 五。
借		一九五。	
四 近江屋		三十日	
差引金ニテ		貸	
二 相摸屋		同日	
差引金清切		貸	
		四。	

同日

三十一

三 上總屋		同日	
金糸織	五丈四尺	田一、二五セ	一 七 五。
革手袋	五對		一
借		一八五。	
一 伊豆屋		五月一日	
黒八丈	五丈五尺	二五セ	三
黒大形	三丈八尺	田一、五。セ	五 二 五。
借		五五五。	
二 武藏屋		二日	
黒綿子	五丈	田一、六三セ	一 六 三。
木綿ふし地	五丈五尺	一二セ	三
紺縮緬	五丈	二。セ	四
借		二三三。	

丁 甲州屋社中		五日	借		二〇〇〇
差引金大坂へ為替ニテ					
五丁 飛彈屋		六日	借		一〇五〇
小巾縮緬無地	五丈五尺	二〇七	三		
同欣付	五丈	三〇七	三		
縮緬袋	六對	七五セ	四五〇		
三丁 安房屋		七日			
大巾羅紗	八尺	田四〇〇	三二		
紋綿子	五丈	二〇〇	二〇		

四丁 常州屋		同日	借		五九
一丈縮緬		田二〇〇			二八
六丁 岩城屋		九日	借		
フヲ子ル	五丈	五〇七	五		
麻子裁	六	三八セ	二二八		
右藏五丈地	五丈	一二セ	二四〇		
三丁 上總屋		十日	貸		九六八
差引金ニテ					三〇



<p>ニ 武蔵屋</p>	<p>男ものくつ足袋六足 づばんはく 革手袋</p>	<p>ニ 伊豆屋</p>	<p>ニ 武蔵屋</p>
<p>十日</p>	<p>二五七久 一五。</p>	<p>十五日</p>	<p>同日</p>
<p>借</p>	<p>七五</p>	<p>四。 一二</p>	<p>貸</p>
<p>三二九</p>	<p>二五</p>	<p>五二</p>	<p>二五</p>

<p>五 信濃屋</p>	<p>三 下總屋</p>	<p>ニ 武蔵屋</p>
<p>一丈羅紗 紋錦 平たん飾</p>	<p>差引金跡切ニテ</p>	<p>差引金跡切ニテ</p>
<p>二十日</p>	<p>廿一日</p>	<p>廿五日</p>
<p>借</p>	<p>貸</p>	<p>貸</p>
<p>二四</p>	<p>一一五五</p>	<p>六一五五</p>

五丁 信濃屋

廿七日

薪

二車

四九。〇。〇

一。

貸

バタ

又拾斤

一六セ

八

一八

四丁 美濃屋

同日

花色縮

五丈二尺

二五セ久

三

借

形付縮緬

五丈四尺

一五。

二

装束かざり

廿日

一。

三四二五

六丁 岩城屋

大巾羅紗

五丈二尺

四四。〇。〇

四八

借

縐子

六尺

二〇。

一二

六。

六丁 野州屋

三十日

右藏ふくんど

又丈

一二セ久

六

借

形付フラ子ル

又丈

七五セ

七五

貸

差引金添切ヒテ

三三

一三五。

第貳式大帳ノ見出し

岩城屋	六丁	野州屋	六丁	信濃屋	五丁
伊豆屋	一丁	マクフコエテア		常州屋	四丁
口ハニホヘトチ		安房屋	三丁	下總屋	三丁
リスルヲワカ		近江屋	四丁	飛彈屋	五丁
上總屋	三丁	サ			
甲州屋	一丁	相摸屋	二丁		
ヨタレソツ子ナ		キユノミ			
ラム		美濃屋	四丁		
武藏屋	二丁				

第貳式

大帳

甲州屋社中

五月 日五	借金	丁十 二〇〇〇	四月 日一	品物 ニテ	丁一 四〇〇〇
				内 二〇〇〇	
				外 二〇〇〇	

貸

伊豆屋

貸

同 月 日一	同 月 日一	同 月 日一
五十	丁五	丁三
	一九二〇	一
	三八七	
	四月 日六	
	借金	

五月 日一	品物	一三〇、五七	丁九	五九五
同 五十一	同	一〇〇、〇〇	丁二	五二
内		一〇〇、五七	丁九	五九五
同		二〇、九七	丁二	五二

四月 日三	品物	丁二	四〇	四月 十三	正金	丁八	四〇
----------	----	----	----	----------	----	----	----

相摸屋

貸

四月 日四	品物	丁二	六〇	五月 二十	同	丁二	二五
五月 日二	同	丁九	二三三〇	同	同	丁二	六一五五
同 二十	同	丁五	三八五五	同	同	丁五	八六五五

武蔵屋

貸

四月 日四	品物	丁二	六〇	五月 二十	同	丁二	二五
五月 日二	同	丁九	二三三〇	同	同	丁二	六一五五
同 二十	同	丁五	三八五五	同	同	丁五	八六五五

四月 日五	品物	丁二	二一	五月 日七	同	丁二	二一
----------	----	----	----	----------	---	----	----

安房屋

貸

四月 日五	品物	丁二	二一	五月 日七	同	丁二	二一
----------	----	----	----	----------	---	----	----

四月 日五	品物	丁二	二一	五月 日七	同	丁二	二一
----------	----	----	----	----------	---	----	----

上總屋

貸

四月 日五	品物	丁二	二一	五月 日七	同	丁二	二一
----------	----	----	----	----------	---	----	----

四月 日五	品物	丁二	二一	五月 日七	同	丁二	二一
----------	----	----	----	----------	---	----	----

下總屋

貸

四月 日五	品物	丁二	二一	五月 日七	同	丁二	二一
----------	----	----	----	----------	---	----	----

四月 日五	品物	丁二	二一	五月 日七	同	丁二	二一
----------	----	----	----	----------	---	----	----

借

貸

四月 日五	品物	丁二	二一	五月 日七	同	丁二	二一
----------	----	----	----	----------	---	----	----

借

常州屋

貸

四月 十日  
品物

肉 八五五。  
五七五。  
二八〇。

丁四 一十  
五七五。  
二八

四月 七十

飛彈屋ノ差圖

丁五 五七五。

借

近江屋

貸

四月 二十  
品物

肉 五一一。  
二〇〇。  
三一五。

丁四 二九  
二九五。  
二二

四月 十三

正金

丁八 二。

借

美濃屋

貸

四月 六十  
品物

三七七五

丁五 三五  
三四二五

借

飛彈屋

貸

四月 七十  
常州屋渡リ差圖

肉 一三五。  
五〇〇。  
八五〇。

丁六 五七  
五七五。  
一〇六七  
五〇五

四月 十二

正金

丁六 五。

同

品物

同

同

同

同

借

肉 一三五。  
五〇〇。  
八五〇。

同

同

同

同

借

信濃屋

貸

四月 九日  
品物

肉 一三四。  
一八〇。  
一六五。

丁七 一〇  
二四

五月 廿七

諸品

丁七 一八

借

野州屋

貸

四月

廿七

品物

五月

十三

同

丁五 丁八

一九五。	一三五。
五月十三	三三

正金

丁五

三三	三三
----	----

借

岩城屋

貸

五月

廿九

品物

同

八廿

同

六九六八

丁五 丁八

九六八	六。
-----	----

式二第

金銀出入帳

借

貸

四月

日一

有金

出 筆墨郵便切手代

入 店小賣代

出 高四千山ノ請合分

出 車力賃

入 店小賣代

出 雜用

一五。

一一五 二五

一七五

八

二。

五

一五



四月				
日六	日五	日四	日三	
出 帳面方給金後	出 ランプ代	出 筆一箱代	出 店修覆雜費	出 下男へ返ス給金戸引
入 店小賣代	入 店小賣代	入 店小賣代	入 店小賣代	入 店小賣代
一 〇	一 八 三 二 五	一 一 〇 五 〇	八 七 二 三	
五	二 五 〇	七 五 〇	二 五 〇	五

四月				
日九	日八			
出 車力四回入足三回	出 馬車賃	出 下々系拾貳式代	送高	入 店小賣代
二 一 五	二 一 九 九 八 五	二 二 八 一 二 三	二 二 八 一 二 三	一 〇 〇
七	四	一	六 一 九 九 八 五	
		二 〇	八 五	

出 小間物入箱代

店小賣代

出 金箱代

出 帳場掛入酒

出 小雜用

店小賣代

出 三月三十日連家賃掛

出 家周諸道具代

店小賣代

下總屋分門金請取

七六

一一。

七六七五

一九

二。

二九。

二八

二。

二五

三十  
同

入 店小賣代

手元殘金

五十

送高

出 陸運賃錢掛

出 郵便切手代

出 店修費舟大子掛

八四

九八七五

二、三五六八七

二、八七五三五

二、三五六八七

一五。

一

五六八三

五十	六十	七十	八十	九十	十
店小賣代	同	同	出 車力代四田船賃七田六拾七	店小賣代	店小賣代
九五	八八七五	一二六三一	一七五	二一〇五〇	一一二八一
				五〇	一一二八一
					手元殘金
					三、二、一、五、二、四
					三、二、一、五、二、四
					三、二、一、五、二、四
					三、二、一、五、二、四

四十	三十	二十	十	七	六	五
出 名炭二下代一ト五田之	出 家用諸道具代金残拂	店小賣代	出 帳面万長門金渡	店小賣代	出 車力賃	同
三一四四四	一〇三二〇	一二九	一八〇五八	九八	一六三七五	同
						同
						同
						同
						同
						同

七廿

出 入是賃

入 店小賣代

手元殘金

一七三八一

六

三八九八七五

三九九二七五

三九九二七五

四月

九廿

送高

三八九八七五

出 荷物陸運賃錢掛福あり

出 荷物船賃

入 店小賣代

七四一。

一五。

二四七五

五月

日二

日一

十三

入 迎江屋分月金請取

入 相模屋分同前済切

入 店小賣代

手元殘金

送高

出 醬油十樽代

出 葉紙墨代

二。 四。 一二五

四二五七八五

四二五七八五

四二三一六。

四二三一六。

一。

一五。



育  
日一

送高

二九。八二六

惣勘定

左ノ惣勘定ニ記ス所ハ前ノ大帳ト金銀出入帳トヨリ集  
タルモノニテ帳合ノ真ノ功用ハコノ惣勘定ニ由テ始テ  
明ニ見ル可キナリ都テ惣勘定ハ商賣ノ有様ヲ示スモノ  
ナレバ其所持ノ高ト借用ノ高トヲ明ニ記サバル可ラズ  
學者ノ常ニ眼ヲ著ク可キ一事ナリ但シ所持トハ商賣ノ  
言葉ニテ云フ所ノ身代又ハ元手ノヲナリ借用トハ即チ  
拂口又引負ノヲナリ帳合ノ法ハ何レニテモ其体裁ヲ論  
ズルヲナク唯コノ一事ヲ明白ニシテ解シ易カラシムル  
モノヲ最上ノ法ト為スノミ



コノ高賣ノ例ニ示ス所ノ元手ト拂口トハ其種類甚タ少  
 キガ故ニコレヲ合点スルノ容易ナル可シ唯金銀出入帳  
 ト大帳トヲ用ヒコレニ仕入有品ノ目錄ヲ合セテ惣勘定  
 ヲ為シタルモノナリ

元手

第一 大帳ノ勘定ヨリ即チ他人ヨリ請取可キ差引

金ナリ

伊豆屋

安房屋

上総屋

一二〇	五七
八〇	
三〇	九〇

常州屋

近江屋

美濃屋

飛彈屋

信濃屋

岩城屋

第二 金銀出入帳ヨリ即チ手元ニナル残金

第三 仕入帳ヨリ即チ手元有品代

二八	三二五〇	三七七五	八五〇五	一六五〇	六九六八	二九〇八二六	一八七五四
							四四八三
							六

拂口

大帳ノ勘定ヨリ

甲州屋へ拂フべき差引金

現在ノ身代

此勘定ヲ見レバ現在我身代ハ二千四百八十三圓二十六錢ナリ此内ヨリ最初ノ元金千五百圓ヲ引ケバ残九百八十三圓二十六錢即チ二箇月ノ商賣ニ得タル利潤ナリ

内  
二、四八三、二六  
一、五〇〇  
九八三、二六

右ニ記シタル次第ヲ引マトメテ左ノ定則ヲ得ルナリ

定則

第一 現在ノ身代ヲ知ルニハ元手ノ高ヨリ拂口ノ高ヲ

引ク可シ

第二 商賣ノ利潤ヲ知ルニハ商賣ノ終ニ残りタル元手

ノ高ヨリ初ニ用ヒタル元金ノ高ヲ引ク可シ

活用ノ例

左ノ例ハ稽古人ヲシテ第二式ノ帳合ヲ益明ニ會得セシメ其定則ヲ活用セシメシガタメニ示シタルモノナリコ

レチ教ルニハ唯事ノ始末ヲ正シク知ラシムルノミナラ  
ズ前ニ示シタル法ニ從テ惣勘定ノ書付チモ作ラシム可  
シ

第一例 コ、ニ一商人アリ五千圓ノ元金ヲ以テ商賣ヲ  
始メ一年ノ後ニ至テ諸帳面ヲ取調ベシニ其勘定左ノ如  
シ  
○正金ヲ受取タル高一萬五千圓同拂出シタル高一萬  
五百圓○一助ノ勘定借千五百圓貸千圓○二助ノ借四千  
圓貸三千五百圓○三助ノ借九百七十五圓貸四百五十圓  
○四郎ノ借四百八十三圓七十五錢貸三百圓○仕入有品  
ノ價二千七百五十圓○五郎ニ借リタル高千五百圓○右

ノ通りニテ一年ノ終ニ元手ノ高ハ何程ナルヤ一年ノ間  
ニ得タル利潤ハ何程ナルヤ

第二例 若狹屋ト越前屋ト會社ヲ結ビ左ノ元手ニテ商  
賣ヲ始メタリ即チ正金三千圓手形千五百圓有品代金ニ  
積リ三千五百圓地面家作等同一萬圓他人ハ差引貸金一  
萬二千五百圓アリ○六箇月ノ後ニ至テコノ會社ノ元手  
ト拂口トノ高左ノ如シ即チ元手ニアル正金千五百圓ハ  
シクヘ預ケ金四千圓手形三千五百圓有品三千七百五十  
圓地面家作等一万五千圓他人ハ差引貸金五千圓○手形  
引替ノタメ社中ヨリ拂フ可キ金高七百五十圓他人ハ差

引借金千五百圓アリ○右ノ通りニテ商賣ノ始ニ用ヒタル元手ハ何程其終ニ殘タル元手ハ何程正味ノ利潤ハ何程ナルヤ

### 稽古人ノ試業第二番

左ノ取引ヲ記スニハ最モヨク心ヲ用ヒザル可ラズ第二式ノ帳面ヲ盡ク用ヒ其法ニ從テ帳合ス可キナリ

### 覺

七月一日元金千五百圓ヲ以テ商賣ヲ始メタリ○加賀屋ヨリ麥粉一俵八圓替ニテ五十俵タラシ砂糖一升四十錢替ニテ一石四斗石鹼一箱四圓替ニテ十二箱上茶一箱二

十圓替ニテ六箱買入レ代金差引○筆紙墨買入代並ニ雜費五十圓拂○店小賣代金十五圓入

同二日能登屋へ麥粉一俵九圓二十五錢替ニテ十俵石鹼一箱四圓二十五錢替ニテ四箱賣渡シ代金差引○車力賃

二圓拂○店小賣代五十圓入

同三日越中屋へ麥粉一俵九圓五十錢替ニテ十五俵上茶

一箱二圓五十錢替ニテ三箱賣渡シ代金差引○加賀屋へ

差引金二百圓拂○店小賣代七十五圓入

同四日越後屋ヨリタラシ砂糖一升五十錢替ニテ十樽十

二石煙草一升六錢替ニテ十二箱三千七百五十錢買取

代金差引○佐土屋ヘタラシ砂糖一升七十五錢替ニテ一  
斗麥粉九圓替ニテ一俵賣渡シ代金差引○店小賣代百十  
圓入

同五日越後屋ヘ麥粉一俵九圓替ニテ五俵賣渡シ代金差  
引○越中屋ヨリ差引金五十圓入○店小賣代百五十圓七  
十五錢入

同六日筆紙墨代五圓五十錢拂○店小賣代百十圓七十五  
錢入

同八日丹波屋ヨリ白砂糖一斤六錢五厘替ニテ千斤タラ  
シ砂糖一升五十錢替ニテ六樽四十石買取リ代金差引○

店小賣代七十五圓五十錢入

同九日書役雇賃五十圓拂○店小賣代五十圓入

同十日店小賣代八十三圓三十錢入

同十一日越中屋ヘタラシ砂糖一升六十錢替ニテ一斗白

砂糖一斤七錢替ニテ五十斤麥粉九圓替ニテ一俵賣渡シ

代金差引○店小賣代六十八圓五十錢入

同十二日丹波屋ヘ差引金五百圓拂○店小賣代七十五圓  
入

同十三日店小賣代百十七圓五十錢入

同十五日丹後屋ヨリ新大豆一俵四圓二十錢替ニテ三俵





樽七十五升賣渡シ代金差引○店小賣代六十五圓七十五錢入

同二十五日但馬屋ヨリ差引濟切ニテ四十九圓三十錢入

○店小賣代七十八圓二十五錢入

同二十六日店小賣代四十八圓九十五錢入

同二十七日書役給料五十圓拂○佐土屋ヨリ差引金十六

圓五十錢入○越後屋へ差引濟切ニテ七百八十圓拂○店

小賣代八十一圓三十八錢入○有品目錄ノ通りニテ代金

千五百圓ノ見積リ

本文ノ問題

一 第二式ニ於テ更ニ詳ナル始末ハ何事ナルヤ

二 金銀出入帳ノ貴キ功用ハ何事ナルヤ

三 商賣諸帳ノ内何レノ帳面ヲ大切トスルヤ

四 金銀出入帳ヲ用ヒザレバ如何シテ有金ノ高

ヲ知ル可キヤ

五 金ノ數ヲ計フルノミニテハ何等ノ證據ヲ得

ザルヤ

六 金ノ出入ヲ正シク記セバ何等ノ利益アルヤ

七 金銀出入帳ヲヨク用レバ何時ニテモ何等ノ

事ヲ知ル可キヤ

八

商賣ニ於テハ幾度出入帳ヲシメ切ルヤ

九

此第二式ニ示ス出入帳ニハ幾度シメ切リテ

為シタルヤ

十

商賣ノ帳面ヲ取扱フニ付キ額ヲ可キ一事

ハ如何

惣勘定ノ問題

十一

惣勘定ニ記ス所ノ事柄ハ何レヨリ集メタル

ヒノノルヤ

十二

商賣ノ有様ヲ示ス惣勘定ハ何事ヲ明ニスル

ト緊要ナルヤ

十三

帳合ノ法ノ最上ナル徴ハ何ニ由テ知ル可キ

ヤ

十四

大帳ヨリ集ル元手トハ何様ノ金ナルヤ

十五

金銀出入帳ヨリ集ル元手トハ何様ノ金ナル

ヤ

十六

仕入帳ヨリ集ル元手トハ何様ノ金ナルヤ

十七

拂口ノ高ヲ知ル法ハ如何

十八

現在ノ身代ヲ知ルタメノ定則ハ如何

十九 商賣ノ利潤ヲ知ルタメノ定則ハ如何



帳合之法卷之一終

計  
冊  
四  
冊

